

連合・連合福島のボランティア活動は、11月2日～4日の3連休に伊達市・郡山市に加え、いわき市でも活動を開始し、3日間で延べ249名の方に復旧作業にあたって頂きました。ありがとうございました。

■本部、県内の構成組織・各地区連合から多くの方に支援いただきました

月 日	場 所	連合本部	県内構成組織より	地域連合より	合計
11月2日	伊達市	18名	5名 自治労	28名 県北	51名
	郡山市	14名	6名 電機	2名 県中	22名
	いわき市			18名 いわき、相双	18名
11月3日	伊達市	18名		18名 県北	36名
	郡山市	14名	12名 電力、電機	7名 会津	33名
	いわき市			25名 いわき、相双	25名
11月4日	伊達市			19名 県北	19名
	郡山市		13名 自治労、電力	7名 県中、会津	20名
	いわき市			23名 いわき、相双	23名
合計		64名	36名	147名	247名

■伊達市で活動



▲今野・連合福島会長から感謝と激励の挨拶



▲活動の様子



▲ボランティア活動に参加された皆さん

◎ボランティアに参加された皆さんからのコメント

菅野 百合子さん（電機連合）



「泥かき、家具の運び出し等大変な作業が多かったですが、一緒に参加していた皆さんと仕事を分担し、力を合わせて作業を行うことで、被災された方々のお手伝いが出来たと思います。土嚢の袋口を縛る仕事は私の得意な作業となりましたので必要であればいつでもお声かけ下さい!!駆けつけます。」

(次ページにつづく)

一条 誠さん（JAM）



「まさか、身近な場所がここまでの被害に遭うなんて思っていなかった。水の含んだ、家具・畳・土砂の運搬処理は想像をはるかに超えるものであったが、だからこそ少しでも多くの人手が必要だと痛感した。被災された方々の生活、そして「笑顔」を少しでも早く取り戻すためにも連合福島がワンチームになって今後も活動していく必要があると思う。」

■郡山市での活動



▲ボランティアセンターでの受付の様子



▲八巻・連合福島事務局長から感謝と激励の挨拶



▲活動の様子



▲連合本部のボランティアの皆さんと一緒に



▲山本和代・連合本部副事務局長、郡山ボランティアセンターを励訪問（中央）

◎ボランティアに参加された方からのコメント

本田 和夫さん（自治労）



「敷地内の泥排出と家財搬出でした。家族だけではとても無理です。1.5mの床上浸水は想像以上に悲惨でした。連合福島ボランティアの取り組みは尊く、大人数、そしてチームとして効率的に復旧作業にあたったのは、良かったと思います。機会があればまた参加し、被災された方の力になりたいです。」

■いわき市での活動



▲国分・連合福島副会長（中央）から感謝と激励



▲作業内容について確認する参加者の皆さん



▲活動の様子

◎ボランティアに参加された皆さんのコメント

渡部 貴久さん（電力総連）



「ゴミや泥の被害が予想以上に酷く大変でしたが、非常に有意義な活動でした。まだまだ多くの家がボランティア派遣を希望しており、私も微力ではありますが、今後続くボランティアにも、ぜひ参加したいと思います。」

国分 康正さん（自動車総連）



「今回初めて、災害支援のボランティアに参加しました。台風19号の被害状況を目の当たりにし、被災者の声を聞き、改めて被害の大きさを認識しました。被災地も市内広範囲であることから、地域ごとでは人手不足であることも実感しました。被災者の『正月は穏やかに迎えたい』の声が実現出来るよう、1日でも早い復旧に向けて、協力していきたい。」

◎お問い合わせ先

連合福島組織広報局・遠藤、渡邊

電話：024-522-0500 メール：rengo-fukushima@bz01.plala.or.jp